

平成26年度 第2回芦屋市社会福祉審議会会議録

日 時	平成27年2月12日（木）10時00分～11時00分
会 場	市役所北館2階会議室3
出席者	出席 会長 中田 智恵海, 副会長 佐々木 勝一 中島 健一, 重村 啓二郎, 大嶋 三郎, 岡本 威 欠 席 都村 尚子, 松葉 光史, 加納 多恵子 事務局 福祉部長 寺本 慎児 地域福祉課 長岡 良徳, 細井 洋海, 竹迫 留利子, 村岡 裕樹 所管課 障害福祉課 鳥越 雅也, 川口 弥良, 吉川 里香, 西川 隆士 高齢福祉課 木野 隆, 高橋 和稔 介護保険課 奥村 享央, 山本 直樹, 広瀬 香, 浅野 理恵子 (敬称略)
事務局	福祉部地域福祉課
会議の公表	■ 公 開
傍聴者数	なし

### 1 会議次第

(1) 副会長あいさつ

(2) 議題

- ① 第7次芦屋すこやか長寿プラン21について  
(第7次芦屋市高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画) (案)
- ② 芦屋市障害者(児)福祉計画第6次中期計画 (案)
- ③ 芦屋市第4期障害福祉計画 (案)

(3) その他

### 2 提出資料

資料1 第7次芦屋すこやか長寿プラン21

(第7次芦屋市高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画) (案)

資料2 芦屋市障害者(児)福祉計画第6次中期計画(中間まとめ案)

芦屋市第4期障害福祉計画(中間まとめ案) 市民意見募集結果について

資料3 芦屋市障害者(児)福祉計画第6次中期計画(案)

資料4 芦屋市第4期障害福祉計画(案)

当日資料 ・第5期介護保険料と第6期介護保険料比較

・市民意見募集結果及び各会議での意見について

### 3 審議経過

(事務局) 第7次すこやか長寿プラン21について説明

(中田会長) 事務局より説明がありましたが、質疑はありませんか。

(佐々木副会長) 資料の155ページにある所得段階別被保険者数の推計値について、40歳から64歳までの人口減少によって介護保険料が上昇しているということは、資料のどこかに記載されて

いますか。

(事務局・奥村) 3ページをご覧ください。今後、本市でも総人口は大きな伸びが見られない一方、高齢化率上昇、認定者数の増加が見込まれ、団塊の世代が75歳以上となる平成37年に向け、これまで推進してきた「地域包括ケアシステム」構築の取組を継承し、更に本格化してまいります、と記載しております。

(佐々木副会長) もう少し詳しく記載できないでしょうか。

(事務局・奥村) 79ページでございます、基本理念にもマイルドな表現ではございますが、前回記載していたものよりも、「我が国は、世界でも類を見ない超高齢化社会に突入しています」と表現しています。

(佐々木副会長) 市民の方がどう捉えるかは分かりませんが、介護保険は先行きが厳しいですね。

(事務局・奥村) その点も踏まえまして、3ページと79ページについては前回とは表現を変えています。

(中田会長) マイルドな表現で記載する方が、若いかたに興味を持っていただけるでしょうか。積極的にこういったことを企画していることを記載することはできませんでしょうか。障がい者福祉では、ピアサポートを充実させていくと記載されていましたが、高齢者福祉でも高齢者同士の支えあいとか社会貢献といったようなことはありますか。

(事務局・奥村) 高齢者の社会参加が中心となります。今まで高齢者は介護される側というイメージが強かったのですが、今は元気な高齢者が増えています。112ページに記載しております、高齢者の社会参加を促進するための事業の充実等があります。また、就労支援も入れております。

(佐々木副会長) 一番高齢化率が上昇するのは平成35年と言われていますが、介護給付費や、先ほど申し上げた所得段階別被保険者数推計値の変化等はどのように推計されていますでしょうか。

(事務局・奥村) 高齢化率は、平成37年に30.1パーセントを超えると推計しています。しかしながら給付費の記載はしておりません。

(佐々木副会長) 今後介護給付費は確実に増加しますよね。介護給付費も予測は難しいのでしょうか。

(事務局・奥村) 現在の伸び率をそのまま推計として試算することは可能ですが、人口の変化等少しの差が大きな差となってしまうことを考えると予測が難しいのが現状です。

(中田会長) 行政が高齢者のために生きがいづくりを行うことまで考える必要はないと私は考えております。むしろ、高齢者自身が生きがいを感じて社会に貢献できるようなプログラムが必要であると考えているのですが、いかがでしょうか。

(事務局・奥村) 就労の支援や地域支援事業があります。ボランティアを主体として行っていただき、高齢者自身が生きがいを感じていただけるようにと計画しております。資料では、120ページ・123ページに記載しております。

(中田会長) 例えば、女性の社会参加を促進するために、女性の起業を狙った企画が兵庫県より90年代後半ぐらいからされていました。高齢者の起業や、社会参加、地域貢献高齢者を後押しできるようなものをいっています。女性起業を促進するためNPO法人が作られ、それが、介護保険事業を支えましたよね。そういったようなものはないでしょうか。

(事務局・木野) 元気な高齢者が活動をするため、居場所、活動場所の確保を支援していくということを考えております。就労であればシルバー人材センターを支援することにより、高齢者のかたが会員となって就労に励んでいただき、地域での活動等を行っております、老人クラブの支援についても考えております。

(中田会長) 老人クラブは、今ある既存の組織として浸透されていますよね。それ以外に、新しい発想で、自分たちが立ち上げるような、高齢者の活動をサポートするようなもの。既存の組織を応援するのではなく、新たに活動していただけるかたを募るとか、活動されるかたの支援ということを目指していただきたいのですが、今後10年ほどかけて考えていただければと思います。

(中田会長) 他にご質問ございませんか。ないようですので次の議題にいきたいと思います。

(事務局) 芦屋市障害者（児）福祉計画第6次中期計画（案）について説明  
芦屋市第4期障害福祉計画（案）について説明

(中田会長) 今の説明について、質問、意見はございますか。

(佐々木副会長) 14ページにある29年度末に施設入所者数66人、地域移行者数9人と記載されていますが、基幹相談支援センターを設置し、3年かけて地域移行者数が9人というのは効率が悪いと思いますが、そのあたりどのようにお考えでしょうか。

(事務局・鳥越) 地域移行・地域定着は基幹相談支援センターの業務の一環であり、他にも各相談支援事業所の人材育成や、複合事業、困難ケースへの専門的な相談支援等を行っております。地域移行・地域定着については、病院へも出向く等、支援システムの構築を進めていきたいと考えております。

(佐々木副会長) 地域移行は、施設入所されているかたで、退所できそうなかたが滞留していれば、すぐに目標の数値が達成できてしまいます。数値達成よりも課題としてあるのは、施設入所して、最後まで退所できないかたが、いかに地域移行できるかではないでしょうか。その後どうしていくのかということが大きな課題であると思います。また、実績では地域移行者数が15人となっていますが、この方たちはグループホームに行かれたのでしょうか。もしくは、他の違う施設に行かれたのか、自宅に帰られたのですか。

(事務局・西川) 半数のかたがグループホームに行かれています。

(佐々木副会長) 地域福祉を進めていくうえで、グループホームを新たに作られる予定はありますか。

(事務局・鳥越) 芦屋市でグループホームを作ることはできませんが、三田谷学園で一つ作られるという話は聞いております。また、市営住宅等大規模集約事業の予定地にグループホーム等を含めた福祉施設の設置について検討しています。

(中田会長) 他にご質問はございませんか。ないようですので、議題については終了といたします。

その他について事務局よりお願いします。

(事務局・長岡) 冒頭に申しあげましたが、計画案につきましては、市議会の民生文教常任委員会所管事務調査でご報告させていただきます。その後、最終の修正を行いまして、本年度3月末策定とさせていただきます。以上です。

(中田会長) 他にございませんでしたら、閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

閉会